

〈史料紹介〉

山口県下の新聞・雑誌・通信社

——昭和二年 内務省警保局調査——

戸 島 昭

二年前の当紀要(第11号)で、私は「大正昭和初期山口県下の新聞紙発行状況」と題した史料紹介を行なった。

それは、山口県文書館が架蔵する戦前の『長官事務引継書』(大正10・昭和4・5・8年の四冊)の中から、警察部高等警察課が調査してまとめあげた「県内発行新聞紙一覧」を抄出してのものであった。

ところが、その後に各方面から種々の気付きが寄せられる中で、この種の史料がすでに刊本として、どこかで複製されているとの情報を耳にして、自分の不勉強さを

痛感させられていた。

とりわけ、札幌市の林新治氏から、その具体的な書名が『新聞雑誌社特秘調査 昭和二年・警保局』(昭和54年10月発行 大正出版株式会社 一八、〇〇〇円)であることを教えられ、恵与された山口県関係部分のコピーを見て恥じ入った。それと同時に、この文書がもつ稀有な価値の高さに驚愕した。

さらに、その原本所蔵者である東京都の羽島知之氏からも、複製版同書の割愛を受けるに及び、全国的な規模

で山口県下の新聞雑誌通信社の状況を把握することが可能になり、その感を一段と強くした。

また、羽島氏からは、同氏の主宰するマスコミ資料ライブラリーが保存する山口県関係新聞の架蔵状況までも教示して頂いた。ここにおいても、私がいかに貧弱な調査で（史料紹介）をしていたかが露見する結果となり、赤面の至りであったが、前稿の不十分な「附表1-6」（昭和59年2月末現在における県内発行新聞紙の架蔵状況）を充実させることができたのは、本当に得難い喜びでもあった。

両氏には、この紙面を借りて、改めて感謝の意を表す次第である。

そのような訳で、今や私は、この昭和二年の警保局による調査史料を踏まえて、大正昭和初期における山口県下の新聞紙発行状況を、より豊かに、より正確に把握し直す必要に迫られており、原本所蔵者の許可を得て、

ここに（史料紹介）の追加をしながら、若干の分析を試みて、前稿の不備を補う機会を得たいと考える。

一 史料解題

史料1 「新聞雑誌及通信社調」は、昭和二年十一月末現在で、内務省警保局が全国の各都道府県知事あてに照会した新聞雑誌通信社の現況調査に対する山口県からの報告書である。

すなわち、警保局は、同年十一月十七日付で「新聞雑誌及通信社調査ノ件」を通牒し、翌十二月末頃には四七都道府県からの回答書を取りまとめて、『新聞雑誌及通信社ニ関スル調』と標題付けした厚い文書に編綴しているが、その中から山口県関係部分を抄出したものである。

内務省警保局関係者の間で特秘扱いにされていたこの^①文書の発見経緯や、その絶大な史料的价值、さらには

この調査が行なわれた昭和二年当時の社会的背景などについては、これをそのまま影印本として刊行した「前掲書」に、原本所蔵者の羽島氏などによって、的確に解説されている。したがって、ここでは山口県関係部分についてのみ、前稿で紹介した大正十年・昭和四年・同五年・同八年の「県下新聞紙一覧」と比較対照しながら、少し説明を加えてみたい。

第一に、この昭和二年の「新聞雑誌及通信社調」をまとめあげた機関は、前稿で紹介した「県下新聞紙一覧表」がいずれも県警察部高等警察課の作成であることからして、同課に間違いはない。また、他の都道府県の回報の仕方から推察すると、山口県の場合も^②扱ひでもって、同年十二月のうちに県知事名で内務省警保局長宛に回答したものと考えられる。

第二に、この昭和二年の調査が対象にした範囲については、その標題名が示すとおり新聞・雑誌・通信社であり、大正十年の調査範囲をそのまま踏襲しているが、そ

れぞれの発行回数については、季刊程度以上であった基準をやや引き上げて、月刊以上のものを対象とした模様である。しかし、昭和四年以降の調査が雑誌・通信社を外し、新聞社のみを対象としており、しかも、隔日刊以上の発行を続ける新聞社に限って行なわれていることに比べれば、大正十年と昭和二年の二回の調査は、ほぼ同一規準で行なわれたものとして、対照が可能である。おそらく、同四年以降の調査は、出版界の隆盛によって、新聞・雑誌類が飛躍的に増大したため、悉皆的な調査が困難となり、対象を社会的影響力の大きな日刊紙程度以上の新聞社に限定したものであろう。

第三に、調査項目とその記事内容については、大正十年・昭和四年・同五年・同八年の四回がほぼ同一であることに對して、昭和二年の調査のみが、項目数も増加し、記事内容も詳細に亘っている。すなわち、「創刊年月日」と「頒布区域」が新設され、「社長又ハ主幹者」の党派関係が明記され、さらに、「主ナル関係者」として主筆者

などとその党派関係が付け加えられているのである。これらの調査項目があることにより、各新聞雑誌通信社の社会的影響力や政治的傾向などが具体的に把握される訳で、他の四回のどの調査報告書よりも高い史料価値を有することになっている。しかも、警保局の指令で、全国一斉に同一規準で行なわれた調査として、他の四六都道府県の報告書と共にこの文書が残っていることの意味は絶大である。これにより、山口県下の新聞雑誌通信社などを、全国的な言論界の動向の中に位置づけてみるこれが初めて可能になり、その点でも、この昭和二年の調査報告書の価値は、他の四回のそれを凌駕している。

史料2 「新聞雑誌及通信社党派一覧書」(抄)は、四七都道府県からの報告書をもとに、警保局が各新聞雑誌通信社の党派性について、都道府県ごとに集計したもので、『新聞雑誌通信社二関スル調』(原本)の巻頭に付けられている。ここでは、中国地域五県と合計欄についてのみ

抄出して、山口県の特徴を中国地区の他県や全国的な党派状況と比較ができるようにした。

これによれば、その当時、全国的には政友会と民政党の二大政党が勢力を伯中させて競っていたが、山口県下の新聞雑誌通信社の場合は、圧倒的に政友会系のものが高い割合を占めていることに先ず気付く。この率の高さは、沖繩県、和歌山県に次ぐ第三位のものであるが、沖繩県の場合は新聞雑誌通信社の総数が七社で、和歌山県の場合も四九社と少なく、比較の対象としては小さすぎる数であることを勘案すると、山口県の政友会色の濃さは特筆すべきことである。

かつて、政友会の「金城湯池」と評され、特に昭和二年当時は山口県出身の田中義一が政友会総裁として政友会内閣を組織しており、県下の強い政友会支援熱は、このように新聞雑誌通信社にも色濃く反映していたのである。

また、政友会系の新聞雑誌通信社に対抗して、民政党

系の新聞雑誌通信社も活発な動きをみせており、この二大政党の競合によって、山口県下の新聞雑誌通信社の政党的色彩は、全体的に強まったと考えられ、「中立」の区分に属するものの割合が、全国で三五番目という低い位置になっていることも特徴的であり、注目すべきことである。

二 史料分析

附表1 「発行状況の変遷」は、昭和二年の「新聞雑誌及通信社調」(史料1)を基に、それ以前の大正十年の調査と、それ以後の昭和四年・同五年・同八年の調査を対比し、山口県下の新聞雑誌通信社の発行回数と発行部数および政治的傾向について、それぞれの変化盛衰を見ようとしたものである。

つまり、昭和二年の調査で対象となった各社について、他の四度の時点における調査結果を抄出し、発行部数はアラビア数字で、発行回数は昭和二年と異なるもののみ

を「月五回」のごとく、さらに政治的傾向は「政」(政友会)「民」(民政党)のごとく、一覧表に略記してみた。その結果、およそ次のようなことが判明する。

第一に、大正十年との比較においては、調査対象基準がほぼ同一であることから、この五カ年間の全体的な変化が把握できる。すなわち、山口県下の新聞雑誌通信社の総数は、五五社から九三社に増加して、言論出版界の発展を物語っているが、その内訳をみると、大正十年の調査でリストアップされた五五社のうち、昭和二年の調査時点まで存続するものは三二社であり、二四社が姿を消している。また、昭和二年の調査で初めてリストアップされるものが六二社であり、全体の三分の二の多さに達している。

第二に、昭和四年以降の調査との比較においては、隔日刊以上の主要新聞社に限定されるが、各社の発行部数の増減や、新聞界全体の動向が読み取れる。すなわち、昭和二年の調査でリストアップされた一八紙うち、同四

年の調査時点まで存続したものは一四紙であり、同五年の時点では一三紙が、そして同八年の時点では一二紙が存続しており、堅実な経営の日刊紙であった。また、昭和二年の調査後に初めて登場する隔日刊以上の新聞は、同四年の調査で一〇紙、同五年の調査で三紙、同八年の調査で一三紙と、増加の一途をたどっており、山口県下の言論出版界も活況を呈していたのである。

附表2 「新聞雑誌及通信社の設立状況」は、昭和二年の「新聞雑誌及通信社調」（史料1）にリストアップされた九三社に通番を付けて、それぞれを設立年次と設立地域でもって分類したものである。

すなわち、縦軸に年次を取り、横軸に地域を取った一覽表に、各社を位置づけてみると、十一月末現在で確認された九三社の設立状況が把握しやすくなり、およそ次のような傾向が判明する。

第一に、設立の時期については、明治期に設立された

ものが一社、大正期に設立されたものが七五社、そして昭和二年になって設立されたものが二六社となり、特に政党政治が「憲政の常道」として確立される大正十三年以降の設立が多いことが目立ち、大正デモクラシーの一端を読みとることも可能である。

第二に、設立の地域については、県庁所在地として政治の中心になっている山口町の多さが特筆される。それに次いで、経済的な中心地として人口の集中する下関市が多く、さらにまた、古くからの産業の地としての防府町の多さも注目される。一方、長門部の大津郡や美祿郡のように、隣接したところに大きな町をもたない郡部では、未だに新聞雑誌などの出版社が設立されていない空白地帯となっている。しかし、同じ郡部といっても、周防部ではやや趣を異にし、大島郡や徳毛郡のような地域でも、若干の新聞雑誌社が設立されており、やはり長門部に比べると、言論出版界においても、周防部は先進地域であったと言える。

史料1

新聞雑誌及通信社調

題号	党派及び政治的傾向	創刊年月日	刊及月別	発行所及発行人	現在ノ部發行	頒布区域	社長又ハ主幹者	主ナル関係者
1	民党派 各種選挙ニ際シ自派ノタメ活動ス	明治十三年 一月七日	日刊	下関市 野村初太郎	三〇〇〇	山口、福岡、朝鮮、大阪、外全	党派 氏名	河村峰太郎、加藤七五郎、湯浅寿男
2	政友派 古キ歴史ヲ有シ秋田社長トナリ益々色彩濃厚トナル	明治廿四年 一月三十日	日刊	下関市 川久保清躬	一〇〇〇	山口、福岡、外全	党派 氏名	代議士 秋田寅之介
3	政友会ノ機関紙ニシテ政治的ニモ稍濃厚ナリ	明治十七年 七月十五日	日刊	吉敷郡山口町 津森平太郎	三、六七	全国一円、朝鮮、台湾、海外	党派 氏名	政友 吉富 寅太
4	中立ヲ標榜セルモ防長新聞ニ対立シ民政党ニ好意ヲ有ス	明治三十三年 十一月一日	日刊	吉敷郡山口町 柴田 金一	四、四六	全国一円、朝鮮、台湾、海外	党派 氏名	中立 木村菊三郎
5	民政党 同党ノ機関紙タルノ性質ヲ有ス	大正五年 二月十一日	日刊	下関市 川西 定雄	三、〇〇〇	山口、福岡、外近県一円	党派 氏名	民政 川西 定雄
6	政友会山口県支部部分 区選機関紙	大正五年 九月十五日	日刊	宇部市 高木 義太	三、五五	山口、福岡、大阪、兵庫、九州	党派 氏名	政友 阿山石三郎
7	政友派 創刊当時中立ヲ標榜セシモ近時政友会ニ好意ヲ有ス	大正十二年 九月二十五日	日刊	豊浦郡彦島町 尼子 庫人	二、〇〇〇	山口、福岡	党派 氏名	政派 尼子 庫人
8	政友会山口県支部部分 区選機関紙	明治四十五年 七月十五日	日刊	宇部市 順太	三、〇〇五	山口、福岡、大阪、兵庫、福岡、外近県	党派 氏名	政友 順太

山口県 昭和二年十一月末日現在

附表1

発行状況の変遷	平均年調	昭和二年調	平均年調
政 7,200	7,500	政 3,015	7,200
政 3,347	政 945	政 3,347	政 945
政 3,860	政 3,676	政 3,860	政 3,676
政 8,000	憲 60,000	政 8,000	憲 60,000
	憲 100,000	政 12,817	憲 100,000
	民 4,426	政 8,500	民 4,426
	政 12,817	政 13,064	政 12,817
	政 24,000	民 3,500	政 24,000
	民 33,000	民 3,440	民 33,000
	民 22,442	民 2,080	民 22,442
	民 34,000		民 34,000
	民 31,100		民 31,100

(18)	(17)	(16)	(15)	(14)	(13)	(12)	(11)	(10)	(9)
下関北斗星報	長門新聞	徳山日日新聞	長州日日新聞	岩国毎日新聞	日刊小野田時報	萩日日新聞	防府公新聞	日刊萩新聞	長州新聞
民政派ニ発刊日浅ク特記スベキモノナシ	民政派 民政党ニ好意ヲ有ス	民政派 民政党ニ好意ヲ有ス	民政党山口県支部字部分区機関紙	政友派	政友派 政友会ニ好意ヲ有ス元県議広沢豊作ノ後援アリ	ナシ	ナシ	本紙ハ政友会ニ好意ヲ有ス元県議広沢豊作ノ後援アリ	政友会ニ好意ヲ有シ特ニ田中総裁ヨリ財政上ノ援助ヲ受ケンツアル模様
昭和二年九月十日	明治四十年七月十五日	大正十五年十二月十六日	大正十五年十月十日	大正十二年八月三日	大正十二年三月十五日	大正十五年十一月二十六日	大正十五年五月一日	昭和二年八月十日	明治四十四年六月五日
月刊	月刊	日刊	日刊	隔日	日刊	日刊	日刊	日刊	日刊
下関市夏秋 茂	豊浦郡小月村 藤永 幸蔵	都濃郡徳山町 神崎 建蔵	宇部市 藤井 勇高	玖珂郡岩国町 吉田 喜平	厚狭郡小野田町 河口 丈一	阿武郡萩町 横山 直造	佐波郡防府町 西村 常三	阿武郡萩町 西村 一馬	阿武郡萩町 上野 升造
五〇〇	四〇七	三〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	一、〇〇〇
岡山、川島、根和	大連、九州、東京、神奈	東京、兵庫、神奈	東京、兵庫、大阪	東京、兵庫、大阪	東京、兵庫、大阪	東京、兵庫、大阪	東京、兵庫、大阪	東京、兵庫、大阪	東京、兵庫、大阪
民派	中立	政友	政友	政友	政友	政友	政友	政友	政友
笹井 貞三	堀井 伊介	堀 喜太郎	河村 謙助	堀井 亮吉	萩崎 新助	代議士 佐々木安五郎	弘中 稔	児玉 貫一	粟屋 芳亮
民派									
小沢 与一									
月3回 7,400	週刊 2,500	隔日 5,000		1,000	700	15	政 1,000	月3回 1,000	不定期月3回 680
民 716	500	政 500	500	政 1,280	750	革 500	政 1,000	政 2,000	1,300

(28)	(27)	(26)	(25)	(24)	(23)	(22)	(21)	(20)	(19)
大島新聞	長陽新聞	徳山新聞	山口県青年	岩国興風時報	長州育英	六連報	防長医薬評論	防長日日新聞	日本太郎
民政派	中立ヲ標榜シ居レルガ過ル県議戦等ニ活動セリ	政友派	ナシ	政友派	ナシ	旧革新俱樂部佐々木安五郎出馬當時勢力アリタルモ目下勢力薄シ	政友派ナルモ色彩濃厚ナラス	政友派	本紙ハ中立系ニシテ政友派ニ關係ナク政治的勢カナシ
大正三年十一月三日	大正五年十月三十一日	大正八年九月廿八日	昭和二年一月十五日	大正六年五月二十日	明治四十二年十月一日	大正二年七月十四日	明治四十五年四月三日	大正元年十月五日	大正十年四月十九日
月刊	月刊	月刊	月刊	月刊	月刊	月刊	月刊	月刊	月刊
大島郡小松町 笹井 貞三	厚狭郡小野田町 倉田 留治	都濃郡徳山町 堀 喜太郎	吉敷郡山口町 河村 謙助	玖珂郡岩国町 堀井 亮吉	豊浦郡勝山村 萩崎 新助	下関市 伊藤 繁雄	佐波郡防府町 弘中 稔	都濃郡徳山町 児玉 貫一	阿武郡萩町 粟屋 芳亮
七六	五〇	五〇	五〇	一、〇〇〇	五〇	五〇	一、〇〇〇	二、〇〇〇	一、〇〇〇
岡山、川島、根和	大連、九州、東京、神奈	東京、兵庫、神奈	東京、兵庫、神奈	東京、兵庫、神奈	東京、兵庫、神奈	東京、兵庫、神奈	東京、兵庫、神奈	東京、兵庫、神奈	東京、兵庫、神奈
民派	中立	政友	政友	政友		革新		政友	
笹井 貞三	堀井 伊介	堀 喜太郎	河村 謙助	堀井 亮吉	萩崎 新助	代議士 佐々木安五郎	弘中 稔	児玉 貫一	粟屋 芳亮
民派						革新			
小沢 与一						伊藤 繁雄	弘中 国香		
月3回 7,400	週刊 2,500	隔日 5,000		1,000	700	15	政 1,000	月3回 1,000	不定期月3回 680
民 716	500	政 500	500	政 1,280	750	革 500	政 1,000	政 2,000	1,300

(38) 民衆評論	(37) 東亜経済研究	(36) 鳳陽	(35) 山口県社会時報	(34) 下関商業学校同窓会会報	(33) 宇部農報	(32) 山口県教育	(31) 古道	(30) 農政時報	(29) 防長毎日新聞
ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ
大正十四年十月十一日	大正八年四月十五日	大正八年十二月十日	大正十三年七月二十五日	大正十一年一月一日	大正十一年五月十日	明治三十六年四月十日	大正八年一月五日	大正十年五月十五日	大正四年十二月廿七日
月刊	年四回	月刊	月刊	月刊	月刊	月刊	月刊	月刊	月刊
阿武郡萩町須脇喜市	吉敷郡山口町大田一穂	吉敷郡山口町大田一穂	吉敷郡山口町篠崎篤三	下関市田中俵作	宇部市森田利雄	吉敷郡山口町坪井家	佐波郡防府町友清九吾	吉敷郡山口町阿野仁平	佐波郡防府町杉村良一
一五〇〇	三〇〇	三〇〇	一〇〇〇	三〇〇	一四〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	三〇〇
県内一部	山口、大阪、兵庫、京都、長崎、福岡、熊本	県内	県内	山口、大阪、福岡	県内一円	県内一円	関西一円	県内一円	県内一円
					政友			農民	
須脇喜一	鷲尾健治	水田淳亮	篠崎篤三	藤井鶴松	藤田権九郎	坪井家	友清九吾	阿野仁平	杉村良一
	大田一穂	大田一穂		田中俵作					
	年4回 1回 1,300	1,200				1,600			月3回 3,000
1,500	200	600	1,300	600	1,420	1,000	1,000	1,000	350

(48) 防長新報	(47) 大阪朝日新聞山口号外	(46) 長周朝日新聞	(45) 大島時報	(44) 防長ノ畜産	(43) 下関市政公論	(42) 大島郷土時報	(41) 山口高商新聞	(40) 都濃郡農会報	(39) 徳友
政友派	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	民政派 民政党ニ好意ヲ有ス	政友派	ナシ	ナシ	ナシ
大正十五年三月廿八日	大正十五年五月二十八日	大正十二年五月二十七日	大正十三年九月二十八日	和年二年八月十日	昭和二年二月五日	大正十二年九月二十日	大正十四年六月廿五日	大正十三年二月二十日	大正十四年十月十日
月刊	一ヶ月 一ヶ月 不定期	月刊	月刊	一週三期 以下	月刊	月刊	月刊	月刊	月刊
玖珂郡柳井町篠本盛一	吉敷郡山口町吉永加次夫	佐波郡防府町清水亮一	大島郡安下庄町山本筆介	吉敷郡山口町中島周蔵	下関市山下富太	大島郡家西芳村金井敏助	吉敷郡山口町奈倉次郎	都濃郡徳山町金子藤一	吉敷郡大内村楨原孝一
三〇〇	三〇〇	三〇〇	一〇〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	三〇〇
県内一部	県内一円	県内一円	東京、大阪、兵庫、岡山、広島、福岡、朝鮮、満州、北海道	県内	県内一円	東京、京都、大阪、兵庫、福岡、朝鮮、満州、布味、米園	県内	県内及東京、京都、広島	県内
					民派	政派			
篠本盛一	村山童平	清水亮一	山本筆介	中島周蔵	山下富太	金井敏助	奈倉次郎	金子藤一	松田武夫
	吉永加次夫								
政 800	2,000	800	1,030	200	民 500	政 500	1,000	1,090	500

(78) 国粹新聞	(77) 西日本大観	(76) 昭和新聞	(75) 防長民友新聞	(74) 岩国ニュース	(73) 西日本	(72) 昭和新聞	(71) 長周毎日新聞	(70) 都濃朝日	(69) 関門朝日新聞
政友派 発刊日高浅ク特記スベキモノナシ	ナシ	ナシ	ナシ	政友派	ナシ	ナシ	民政派	ナシ	ナシ
昭和二年 十月一日	昭和二年 十月廿五日	昭和二年 九月十一日	昭和二年 十一月十七日	昭和二年 九月二十日	昭和二年 九月十日	昭和二年 八月五日	昭和二年 七月十五日	大正十五年 十二月二十日	昭和二年 一月一日
月刊	月刊	月刊	月刊	月刊	月刊	月刊	月刊	月刊	月刊
下関市 西村 孫一	下関市 小森園 勇	佐波郡防府町 池田 正治	玖珂郡柳井町 広野喜代次	玖珂郡岩国町 塩井 亮吉	吉敷郡山口町 角田 完良	厚狭郡厚狭町 坪井 栄助	都濃郡末武南村 吉見 広喜	都濃郡徳山町 津永 善輔	下関市 石川 経章
一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	二〇〇〇	一〇〇〇
県内一円	山口、福岡	県内一円	県内一部	県内一部	県内一部	県内一部	県内一部	県内一部	県内一円
政派				政派			同		
上塚 宇一	小森園 勇	池田 正治	広野喜代次	塩井 亮吉	角田 完良	坪井 栄助	吉見 広喜	津永 善輔	石川 経章
政派						民政			
西村 孫一					大井吉太郎	道城 讓			中西繁太郎
政 300	300	350	500	政 550	100	1,000	民 1,000	2,200	200

(87) 神教	(86) 女子道	(85) 周北時報	(84) 山口県農会報	(83) 商通時報	(82) 日本電報	(81) 純民報	(80) 聖親鸞	(79) 萩新報
ナシ	ナシ	政友派	ナシ	政友派 政友会ニ好意ヲ有スルモ政治的傾向ノ見ルベキモノナシ	ナシ	政友派 発刊日浅ク特記スベキモノナシ	ナシ	ナシ
大正五年 三月二十五日	昭和四十五年 一月二十五日	大正十四年 九月十日	大正六年 一月十日	昭和二年 十一月五日	大正十四年 五月一日	昭和二年 十一月十五日	大正十四年 八月三十一日	大正十四年 二月二十五日
月刊	月刊	月刊	月刊	日刊	日刊	月刊	月刊	月刊
熊毛郡上関村 村田 景治	都濃郡鹿野村 宮本 藤子	都濃郡須々方町 岩城 定	吉敷郡山口町 井上虎太郎	下関市 林 敬一郎	下関市 磯部弥太郎	下関市 竹田三之助	吉敷郡山口町 木村菊三郎	阿武郡萩町 三好利三郎
一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
朝鮮一円 樺太	朝鮮一円 布哇	東京、大阪 政友	全国一円	下関市内	下関市内	県内一円	県内	県内一部
村田 景治	宮本 藤子	岩城 定	井上虎太郎	林 松次郎	磯部弥太郎	竹田三之助	木村菊三郎	出羽百合助
	宮本 重胤			政派				
				林 敬一郎	光永 星郎			
1,000	1,000	政 1,500	2,400	政 100	15	政 500	900	100
1,500	1,300		750	政 90	30			
				510	35			
				50	40			

附表2 新聞雑誌及通信社の設立状況 (史料1を地域・年次別に分類)

○印は政友系、△印は民政系、◇印は革新倶楽部系を示す——昭和2年末現在

	大島	玖珂	熊毛	都濃	佐波	吉敷	厚狭	美祿	豊浦	大津	阿武	計
	小安 松庄 町町	岩麻柳 国里井 村布村 村	上 関 村	下德 松山 町町	防 府 町	山小 口郡 町町	宇厚 部野 田狭 市町 町	美祿	下長彦 関府島 市町町 町	小月 村 △ 23 勝山 村	大津	
明13												
17						③			△			1
24									②			1
33												1
36						△						1
40						32				小月村△ 23勝山村		11
42												1
44												1
45					鹿野村 86	②					⑨	1
大1				②		89	⑧					3
2									◇			2
3	△											1
4						88						2
5					29							1
6			87				⑥27		△			4
7		②										2
8			⑩	⑥	31	36						5
9						37						1
10						93						8
11		家室西方村 42				右田村 92	30				19	2
12		⑭					33		34			3
13	45		浅江村 ⑤						58	⑦		4
14		△		須々万村 40	46	35	大内村 13					8
15					49	51						9
16					⑤	41	39		82		38	1
17		④⑧		⑩	11	47	52	△			79	9
18				末武南村 70	61	59					12	12
19				⑤	63	25	67				⑩	55
昭2		⑦③⑥⑤			76	44	仁保村 73		△ 47 57 58 59 60 61 62	⑤		26
計	1 3	1 9	2 3	1 10	3 11	10 22	1 7	2 7	1 22	1 6	1 2	93

山口県下の新聞・雑誌・通信社 (戸島)

七四

5.14 =
-076